

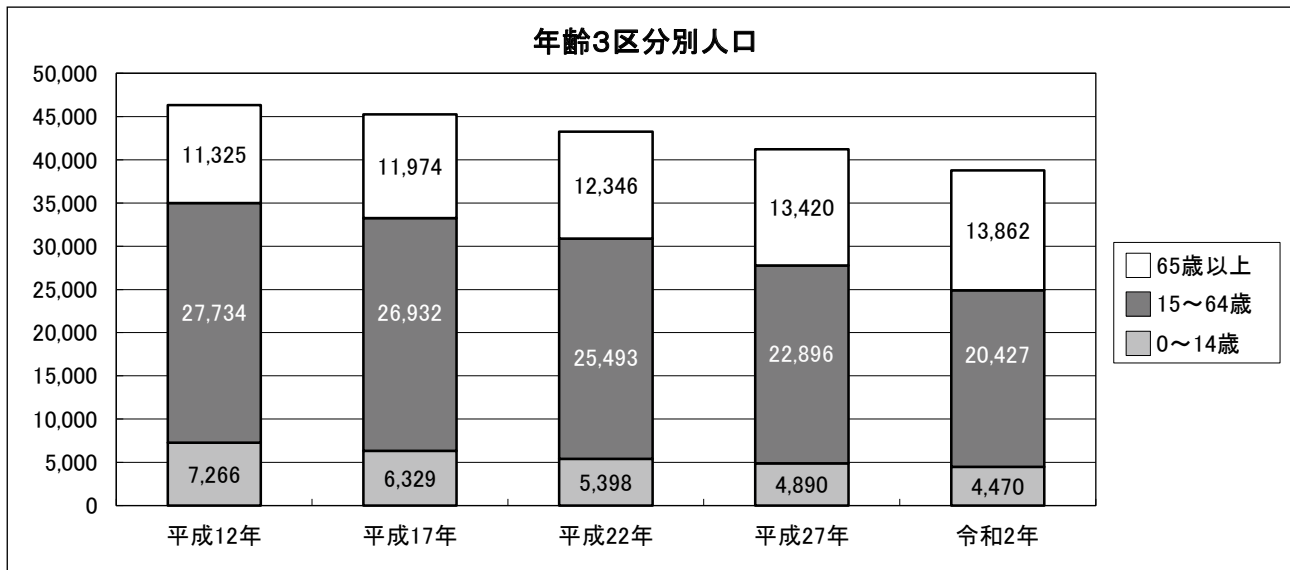
第2章 第3次計画の現状と成果と課題

1. 丹波篠山市の人口の推移

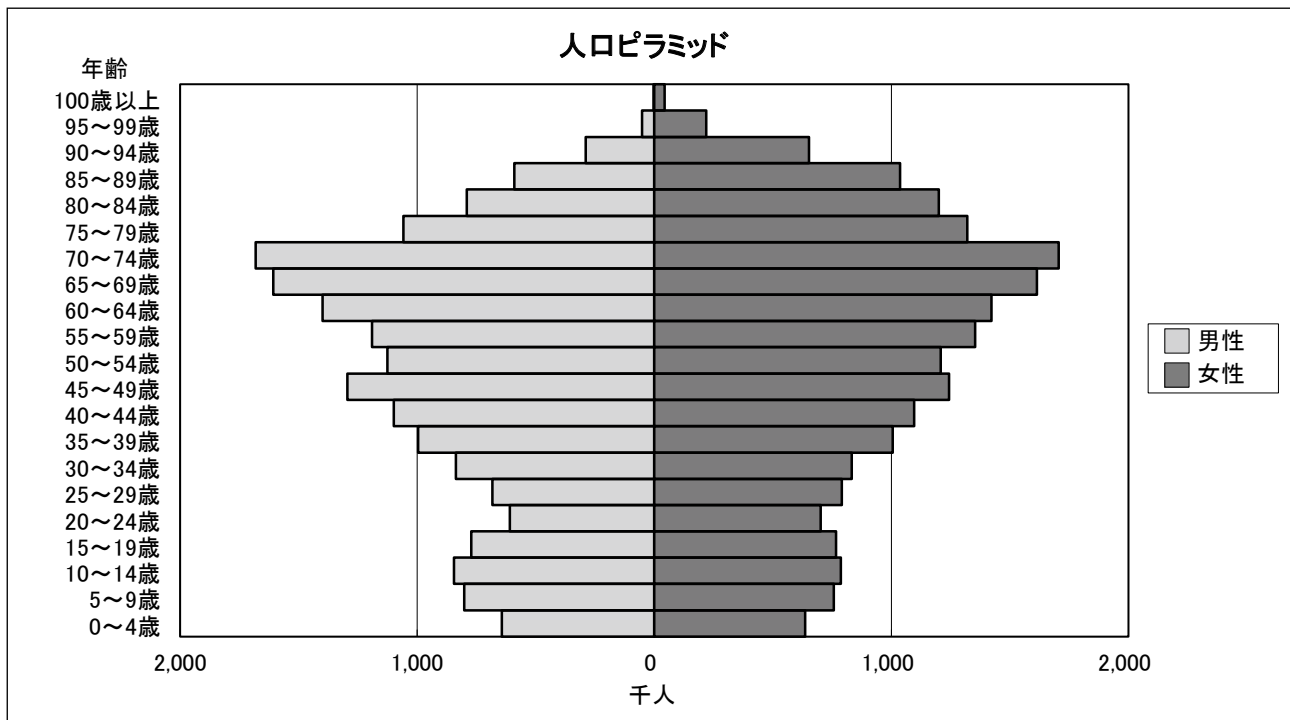
1) 人口及び世帯状況

本市の人口は令和2年度で38,759人であり、平成27年度に比べ2,447人(6.3%)減少しています。

世帯総数は令和2年度で15,605世帯であり、平成27年度に比べ27世帯(0.17%)増加しています。1世帯当たりの人員は2.5人となり平成27年度に比べ変化は見られません。単身世帯や夫婦のみ世帯が増加し、世帯の細分化がさらに進んでいます。また、(※)高年齢化率は令和2年で35.8%と高く、高齢者の単身世帯も年々増加しています。

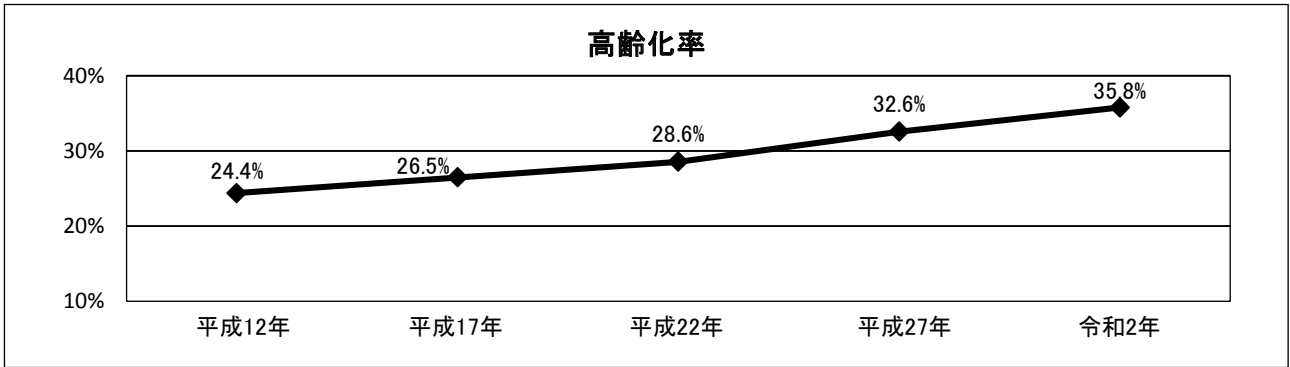


丹波篠山市・令和2年国勢調査

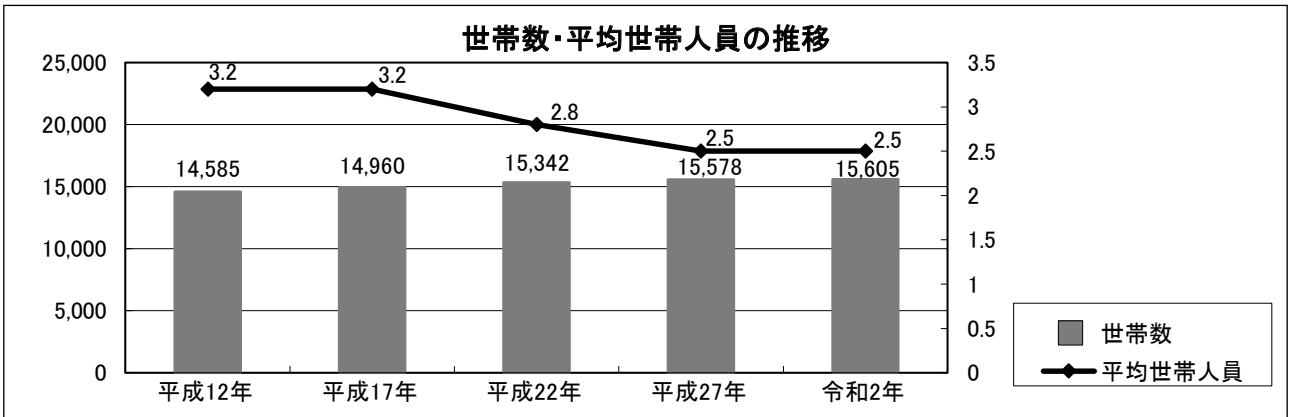


丹波篠山市・令和2年国勢調査

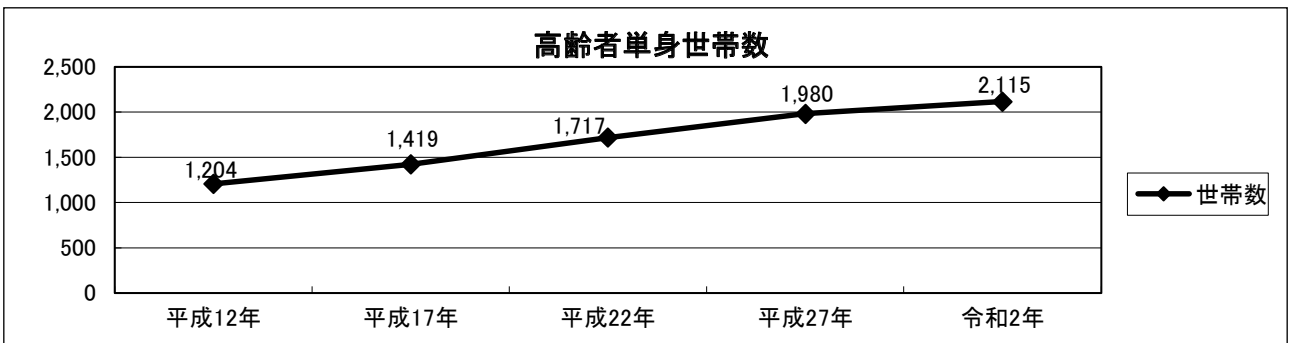
第2章 第3次計画の現状と成果と課題



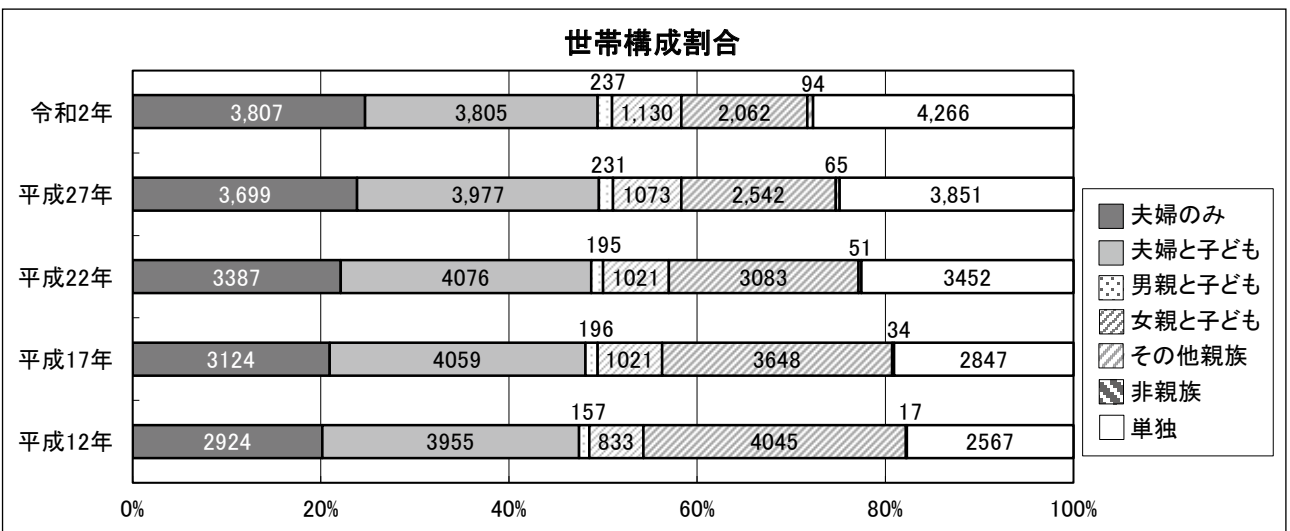
丹波篠山市・令和2年国勢調査



丹波篠山市・令和2年国勢調査



丹波篠山市・令和2年国勢調査



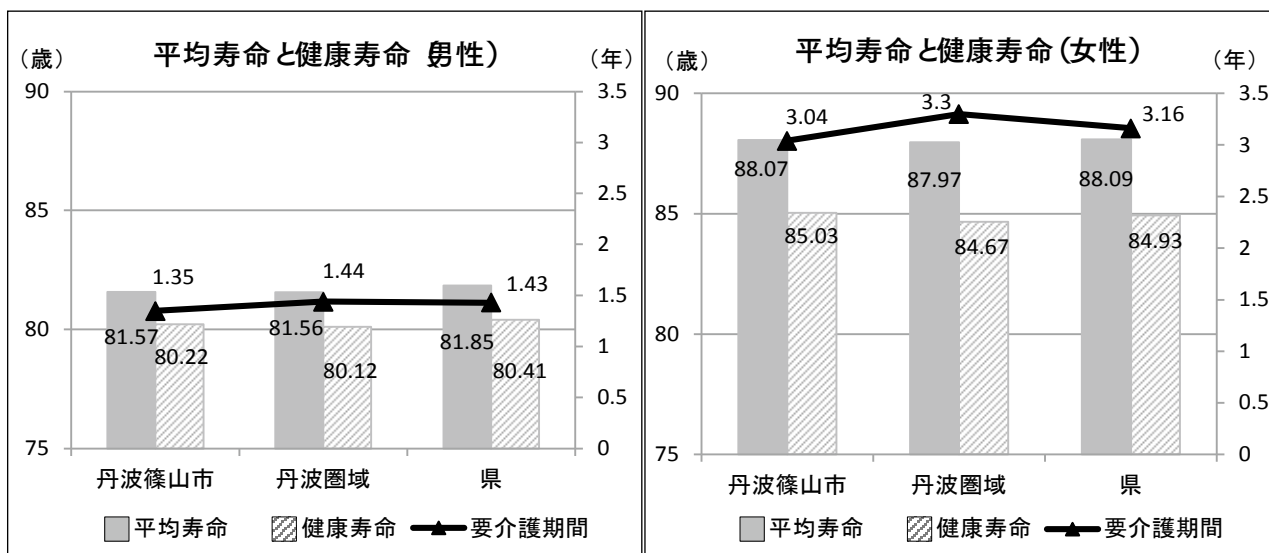
丹波篠山市・令和2年国勢調査

第2章 第3次計画の現状と成果と課題

2) 平均寿命と健康寿命

男性の平均寿命・健康寿命は、丹波圏域より長いですが、県より短い状況です。女性の平均寿命は丹波圏域より長いですが、県より短い状況です。健康寿命は、丹波圏域および県より長い状況です。

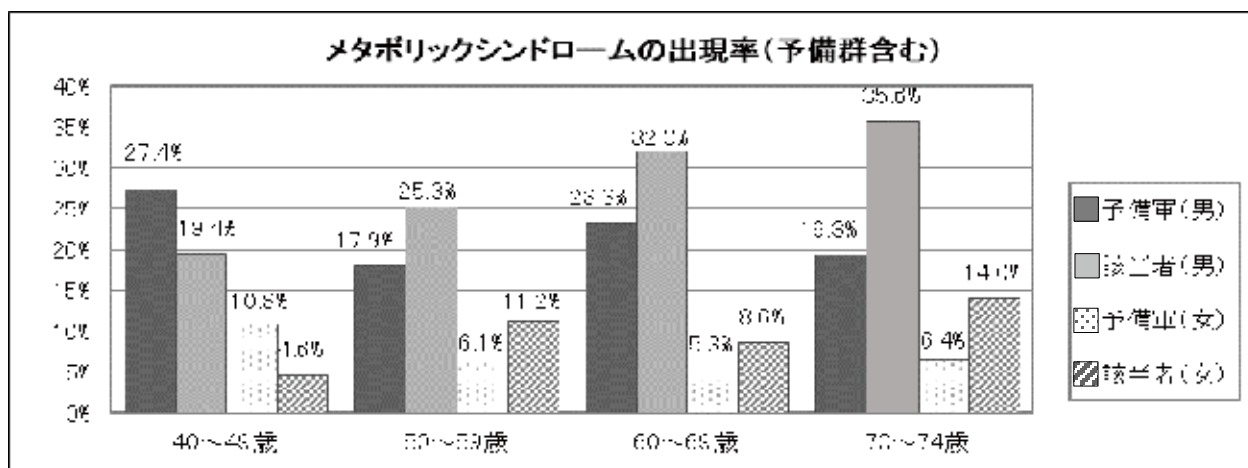
要介護期間は、男女ともに丹波圏域および県より短い状況です。要介護の期間を短くし、健康寿命を延ばすためにも食育は重要な課題です。



令和2年健康寿命算定結果総括表より作図

3) メタボリックシンドローム (内臓脂肪症候群) の出現率

(※) メタボリックシンドロームの出現率は、男性が高く60歳以上で出現率が3割を超えています。



令和3年度国保データベースシステム

2. 現状と成果と課題

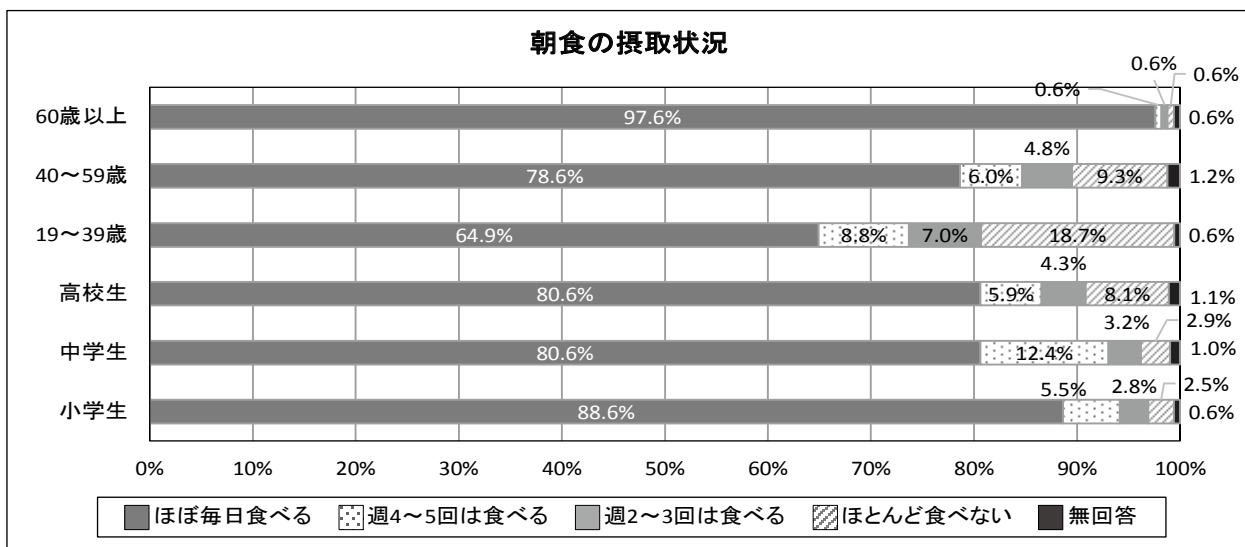
1) 家庭における食育の推進

* 第3次計画の目標値の評価（実績値は無回答を除く）

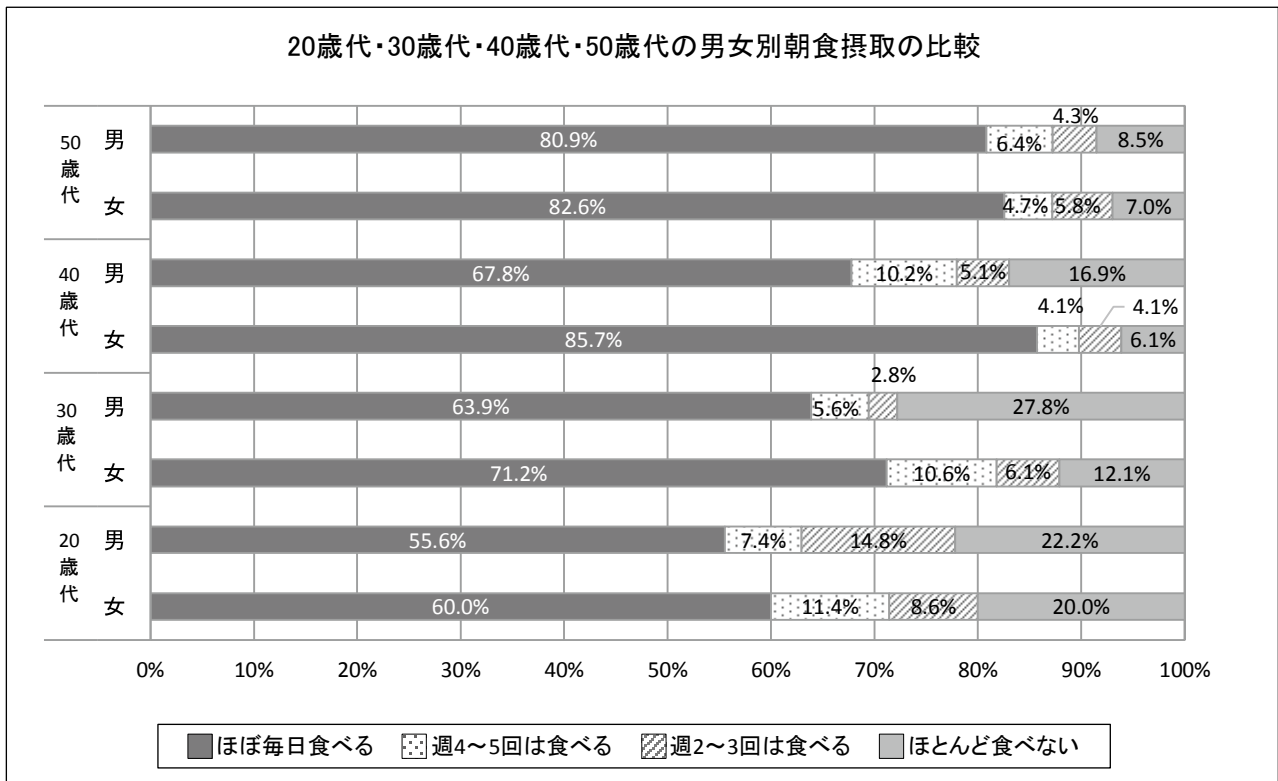
内容	現状値 (平成 29 年度)	目標値 (令和 4 年度)	実績値 (令和 4 年度)
朝食を食べる子どもの割合を増やす 【小学生、中学生】	90.1% *1	100%	87.3% *4
食事のあいさつができる子どもの割合を増やす 【2歳～中学生】	70.0% *1	85%	73.6% *4
毎食野菜をとっている人の割合を増やす 【20歳～39歳】	28.5% *1	50%	24.2% *4
1日1食以上、家族そろって食事をする人の割合を増やす 【小学生、中学生】	91.6% *1	100%	94.7% *4
メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）の該当者を減らす【40歳～59歳】	男性 21.2% 女性 5.8% *2	男性 20.0% 女性 5.0%	男性 22.9% 女性 8.6% *5
よく噛んで、味わって食べる人を増やす 【3歳以上】	74.6% *1	80%	72.1% *4
過去1年間に歯科健康診査を受診した人の割合を増やす 【20歳以上】	62.4% *1	65%	59.3% *4
むし歯の有病率を減らす 【3歳児】	18.1% *3	15%	14.1% *6

出典 *1 平成 29 年度篠山市食育と健康に関するアンケート *2 平成 28 年度国保データベースシステム
 *3 平成 28 年度篠山市3歳児歯科健康診査 *4 令和3年度丹波篠山市食育と健康に関するアンケート
 *5 令和3年度国保データベースシステム *6 令和3年度丹波篠山市3歳児歯科健康診査

朝食を毎日食べている子どもの割合は、小学生では8割を超えていますが、平成29年度より下がっています。また、年代別で見ると、19～39歳で朝食をほとんど食べないと答えている人の割合が多く、その中でも20～30歳代の男女においてその傾向が見られ、特に30歳代の男性で傾向が強くなっています。

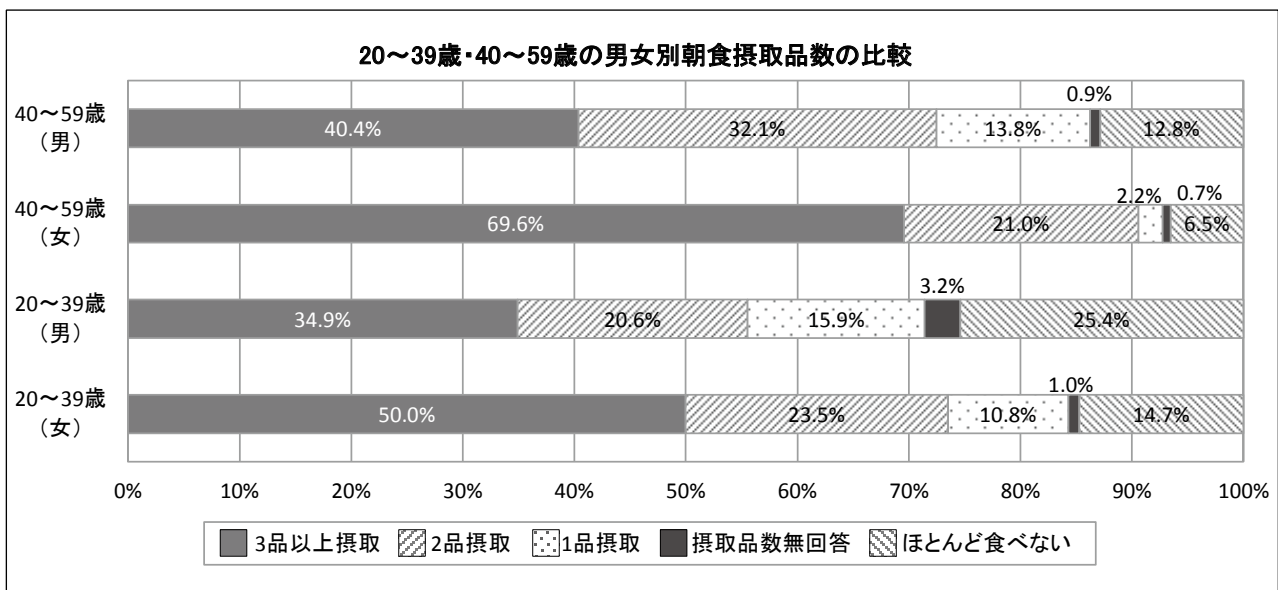


令和3年度丹波篠山市食育と健康についてのアンケート



令和3年度丹波篠山市食育と健康についてのアンケート

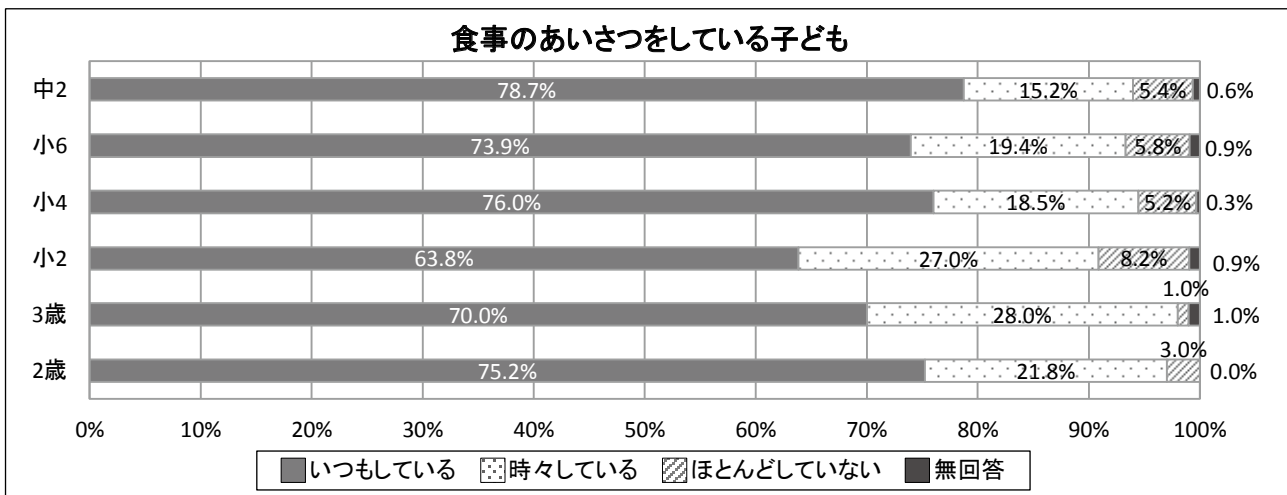
また、朝食を食べている人の中でもパンやごはんの主食、菓子・嗜好飲料のみの単品摂取やパンやコーヒーなどの2品摂取の人が、20~39歳の男性では36.5%、女性では34.3%あります。朝食を食べている人でも、次に食事内容を充実する意識を持ってもらうことが、どの年代でも課題です。また、ほとんど食べないと答えている人には、1品でも朝ごはんを食べる習慣を身につけられる環境を整える工夫が必要です。



令和3年度丹波篠山市食育と健康についてのアンケート

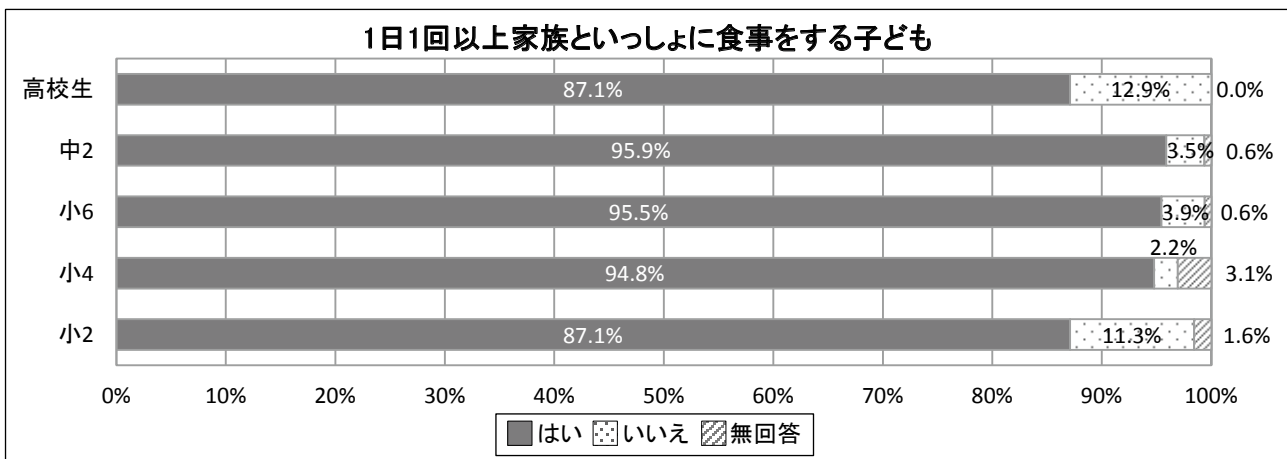
第2章 第3次計画の現状と成果と課題

食事のあいさつはおおよそ7割の子どもがいつもしていると答えています。中学生になっても食事のあいさつをする子どもが増えています。



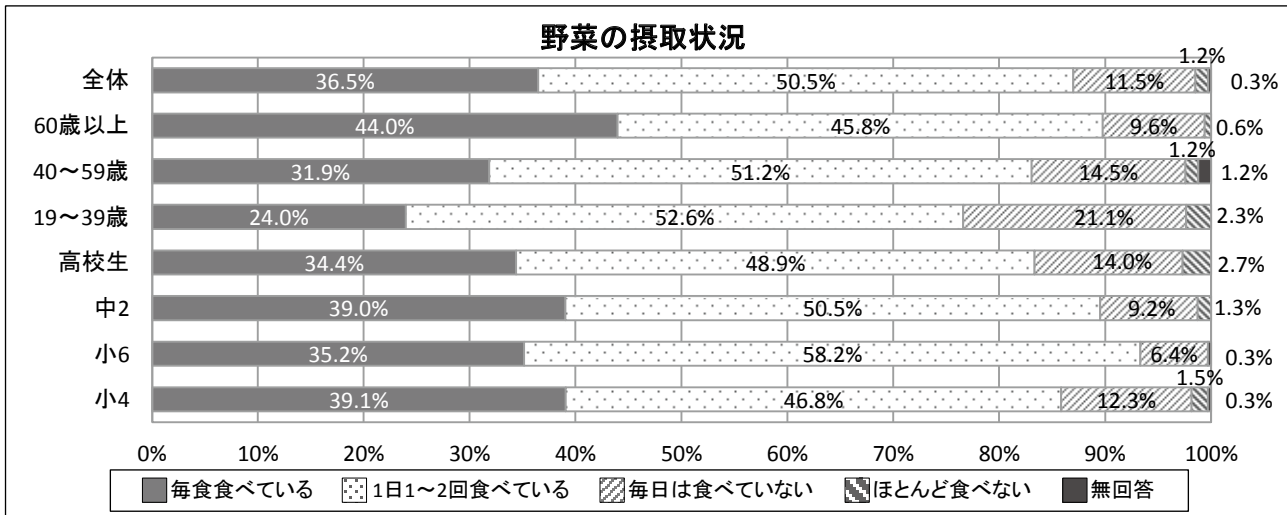
令和3年度丹波篠山市食育と健康についてのアンケート

1日1回以上、家族と一緒に食事をする子どもの割合は約9割で、小学生、中学生、高校生ともに大きな差はありません。



令和3年度丹波篠山市食育と健康についてのアンケート

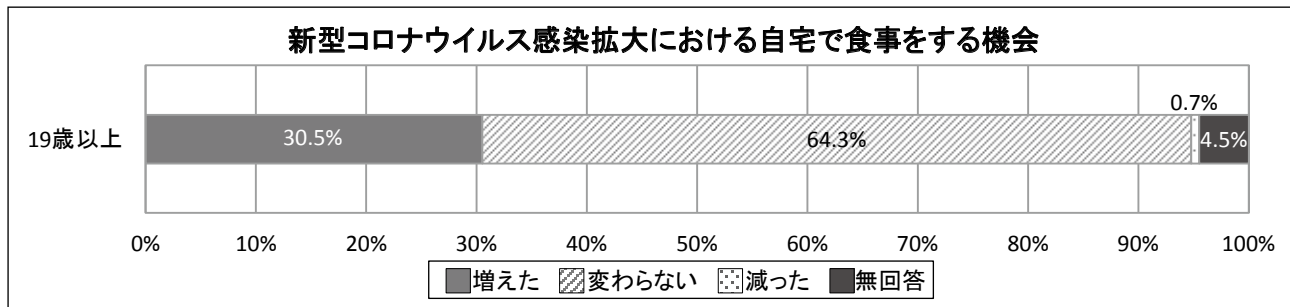
野菜を毎食および1日1~2回食べている人は87%です。年代別で見ると高校生、19~39歳、40~59歳において毎日食べない、ほとんど食べない人の割合が高くなっています。



令和3年度丹波篠山市食育と健康についてのアンケート

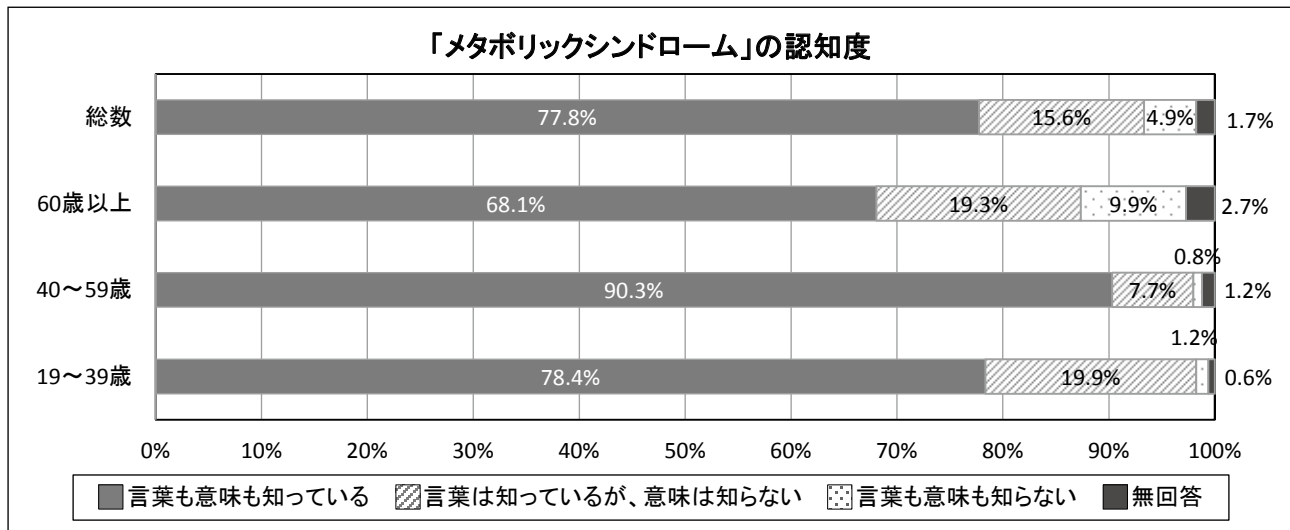
第2章 第3次計画の現状と成果と課題

自宅で食事をする機会が増えた人は約3割です。新型コロナウイルス感染症の影響は長期間にわたり、以前の生活に完全にすることは困難と考えられます。(※)新しい生活様式の中では、テレワーク等により自宅で料理や食事をする機会が増えたと思われ、食生活を見直す機会になったと考えられます。



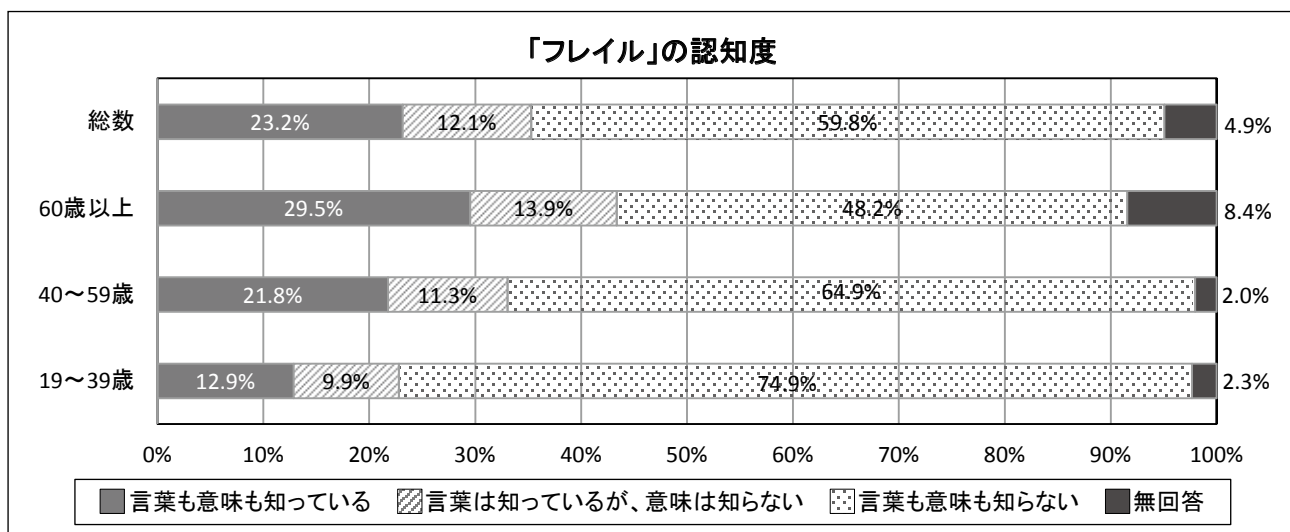
令和3年度丹波篠山市食育と健康についてのアンケート

メタボリックシンドロームを知っている人は77.8%です。40～59歳において言葉も意味も知っている人が90.3%と多くなっています。



令和3年度丹波篠山市食育と健康についてのアンケート

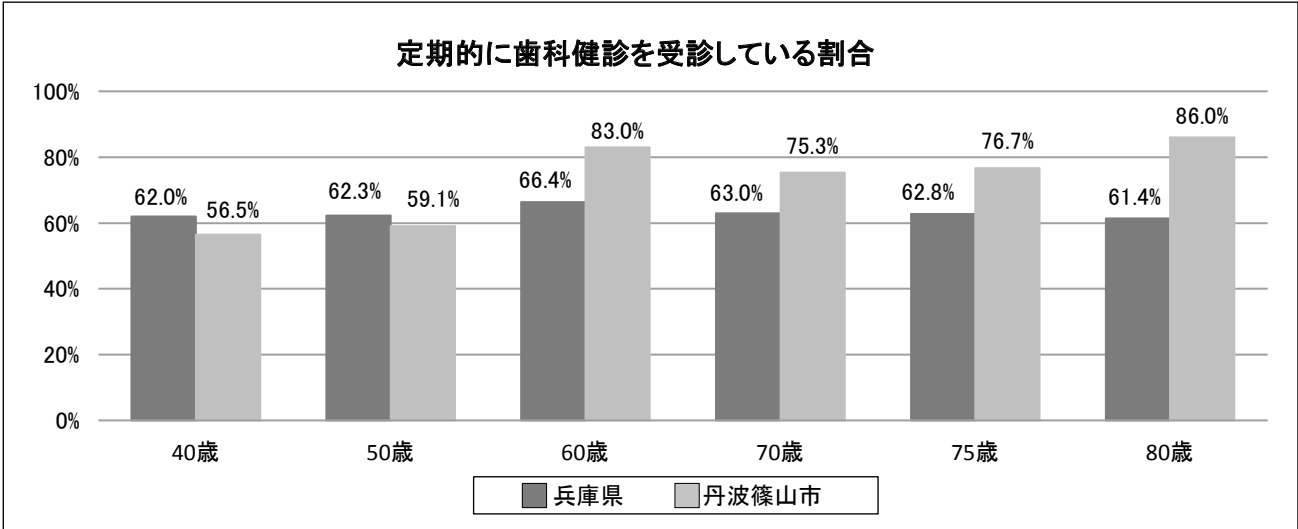
(※)フレイルについて、言葉も意味も知っている人は23.2%と、どの年齢においても低いため、正しい知識の周知が必要です。



令和3年度丹波篠山市食育と健康についてのアンケート

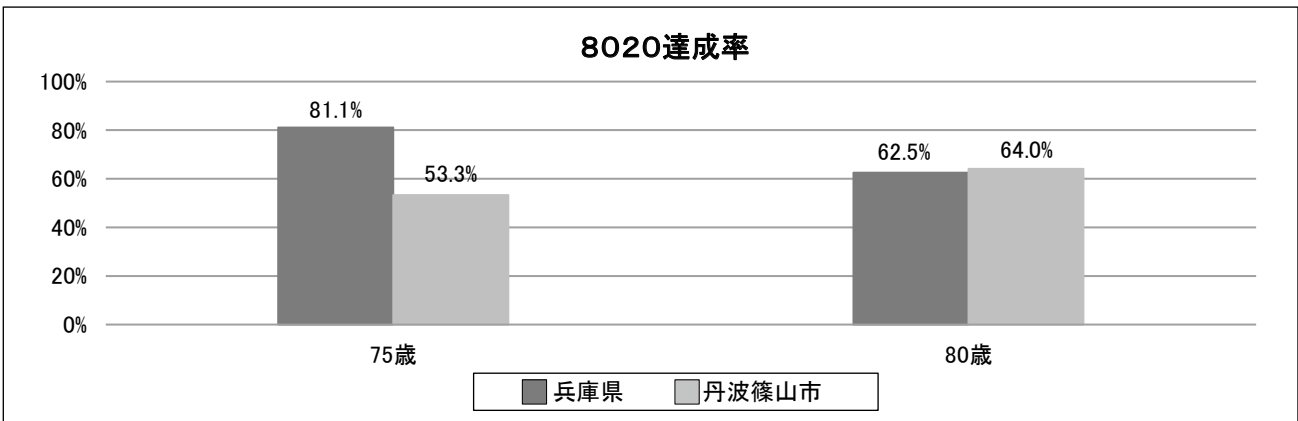
第2章 第3次計画の現状と成果と課題

歯科健診を受けている成人の割合は5割以上です。生涯にわたり美味しく食事を楽しむには、かかりつけ医を持ち、歯のセルフケアに関心を持つことが大切です。また、健やかな口腔を維持することが(※)生活習慣病や新型コロナウイルス、肺炎等の予防にも繋がることから啓発を行うことが必要です。



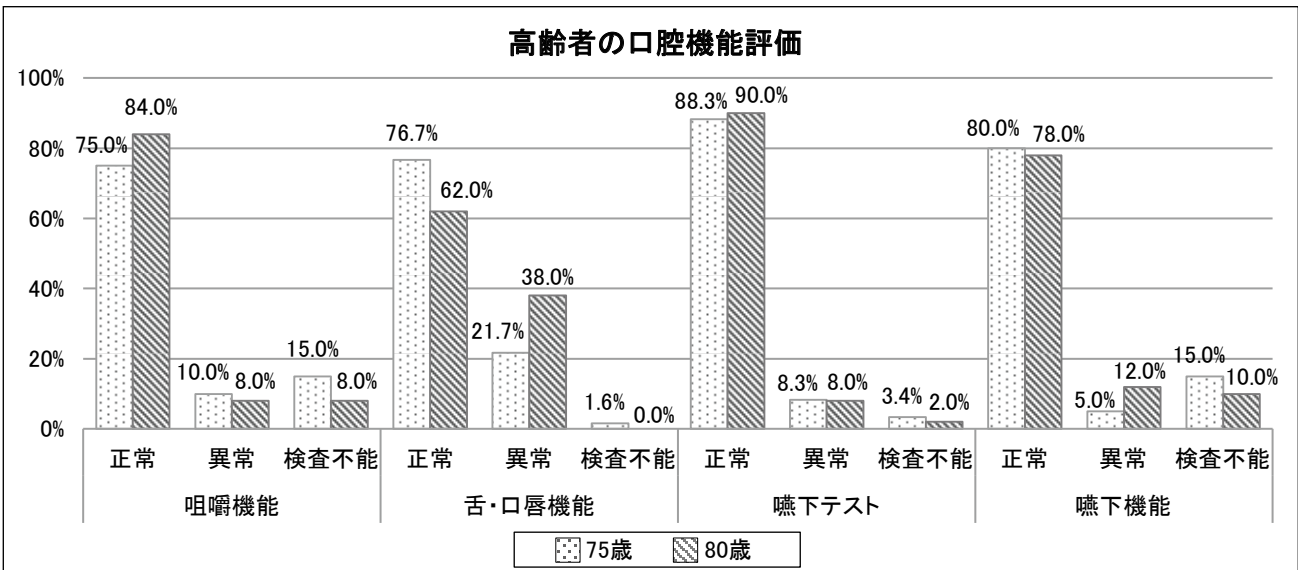
令和2年度歯周病検診・後期高齢歯周病検診等結果まとめ

8020 達成率は半数以上の高齢者が達成していますが、75歳以上では兵庫県より低いです。



令和2年度後期高齢歯周病検診等結果まとめ

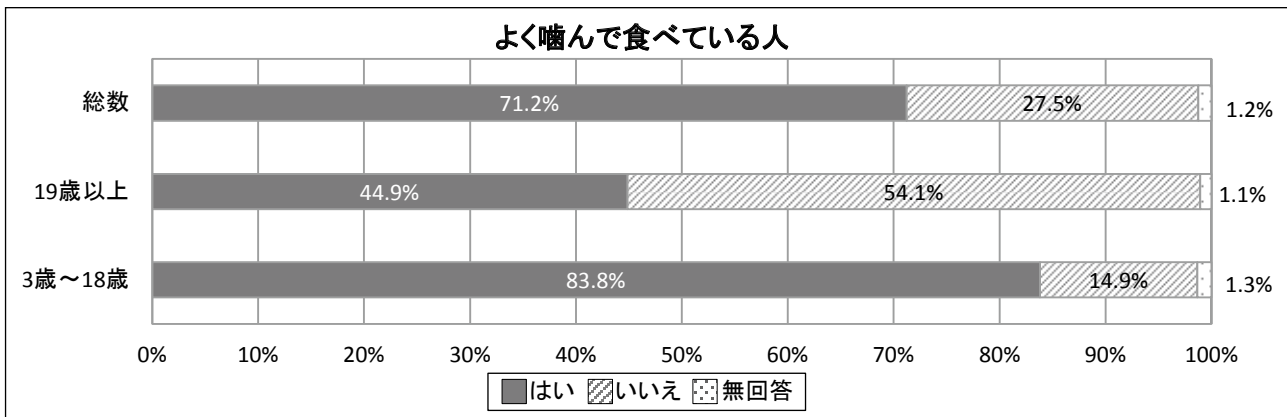
高齢期は、舌・口唇機能に問題がある人の割合は他の機能に比べ高いです。口腔機能の巧緻性を保つため、お口の体操や(※)オーラルフレイル予防について周知・啓発する必要があります。



令和2年度後期高齢歯周病検診等結果まとめ

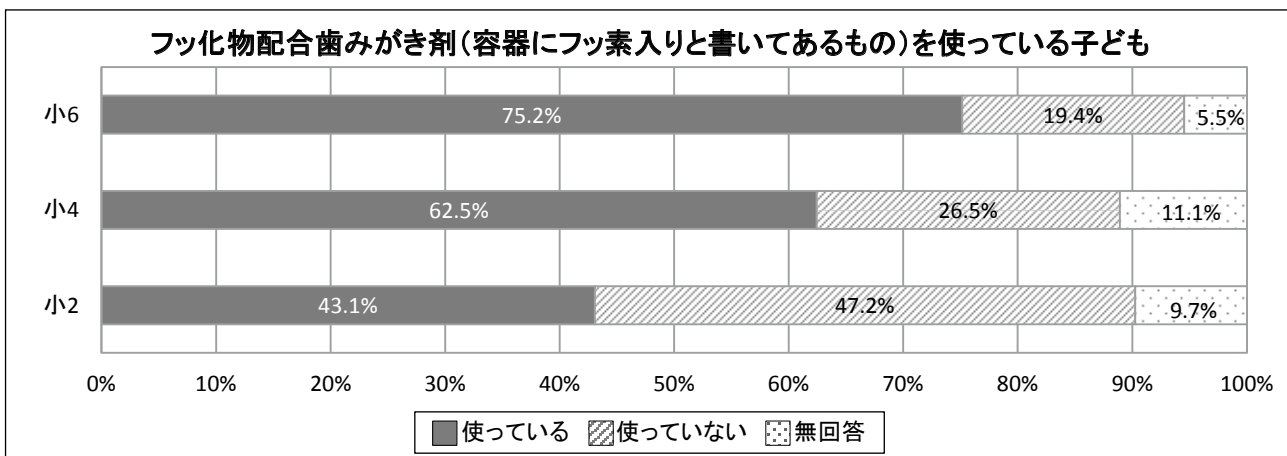
第2章 第3次計画の現状と成果と課題

よく噛んで食べている人の割合は3～18歳で83.8%と高く、19歳以上では44.9%と低くなっています。よく噛んで食べるためには口腔機能が十分に発達し維持することが必要であり、(※)健康寿命の延伸にも繋がります。



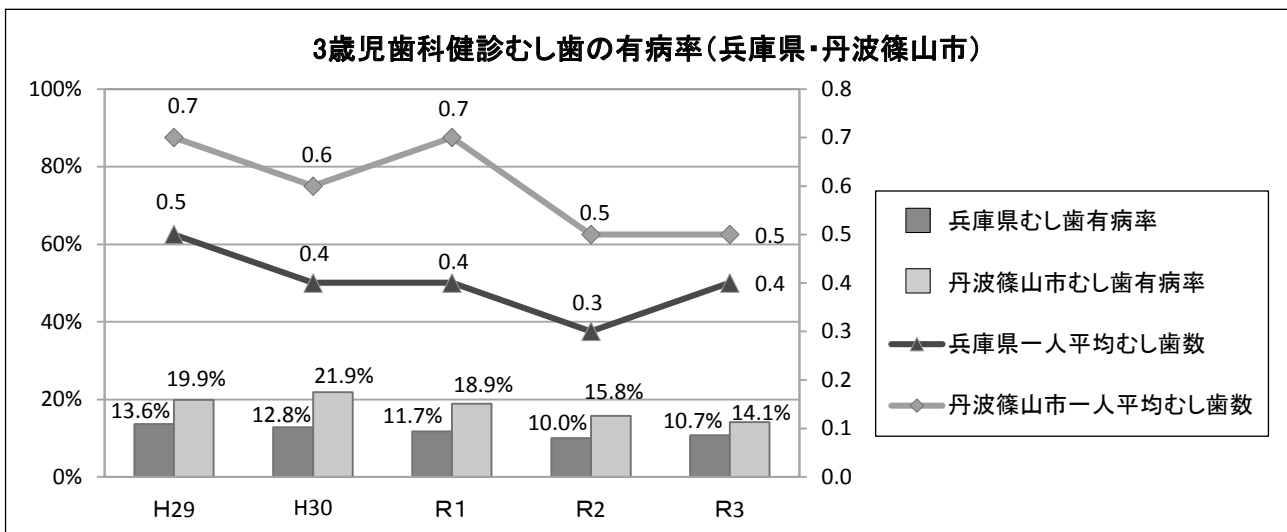
令和3年度丹波篠山市食育と健康についてのアンケート

半数以上の児童が(※)フッ化物配合歯磨き剤を使用しています。

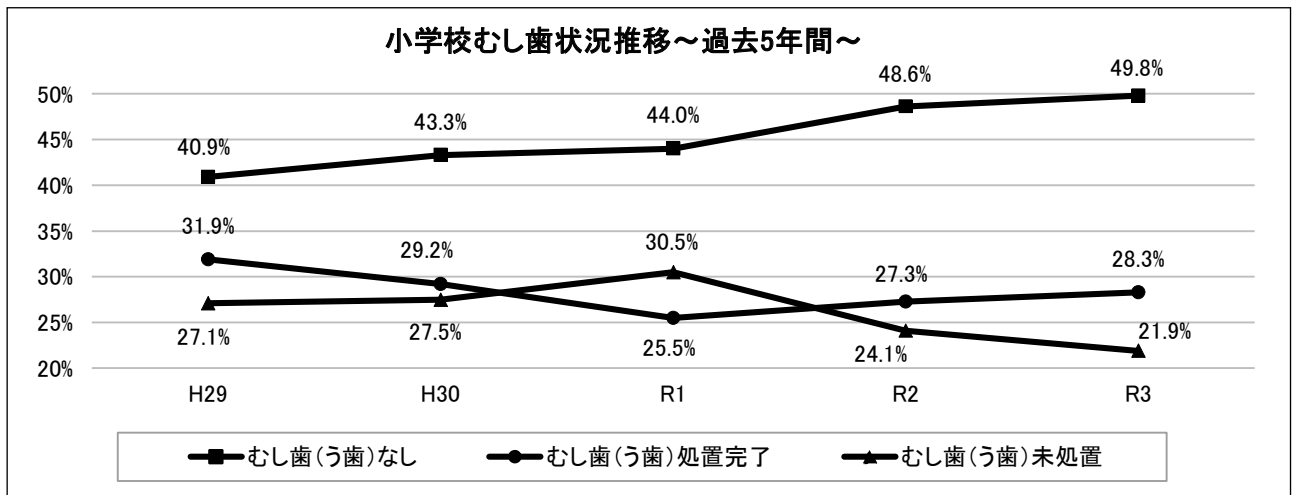


令和3年度丹波篠山市食育と健康についてのアンケート

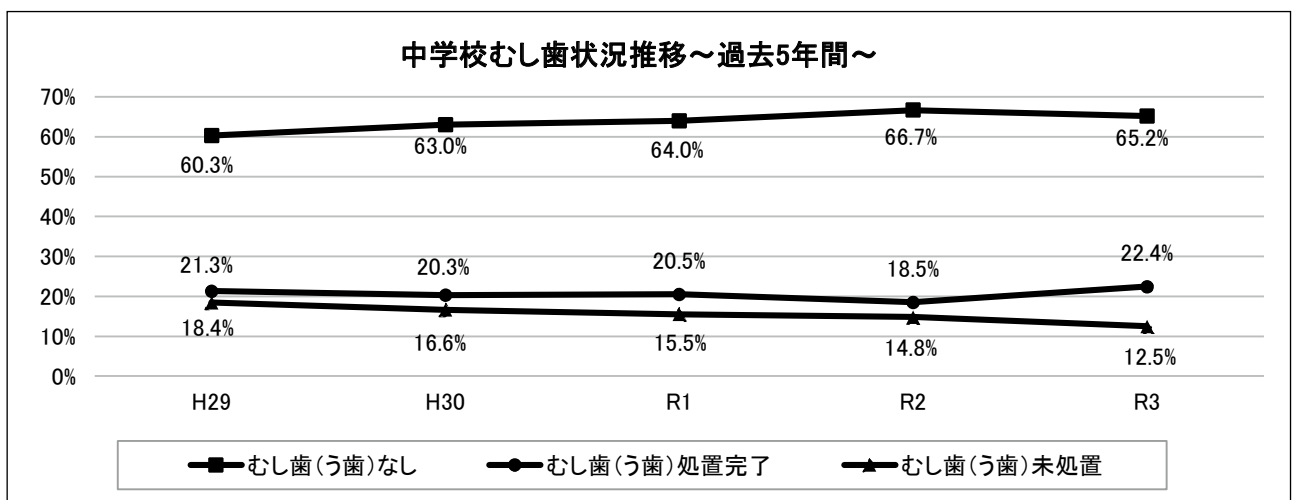
3歳児のむし歯有病率が県平均より高い状況が続いています。むし歯を予防するためには食べ物の内容、食べる時間、食べ方など、健全な食生活を実践するとともに歯磨き習慣を定着させることが大切です。



3歳児歯科健診調査結果



令和3年度丹波篠山市児童生徒健康調査統計



令和3年度丹波篠山市児童生徒健康調査統計

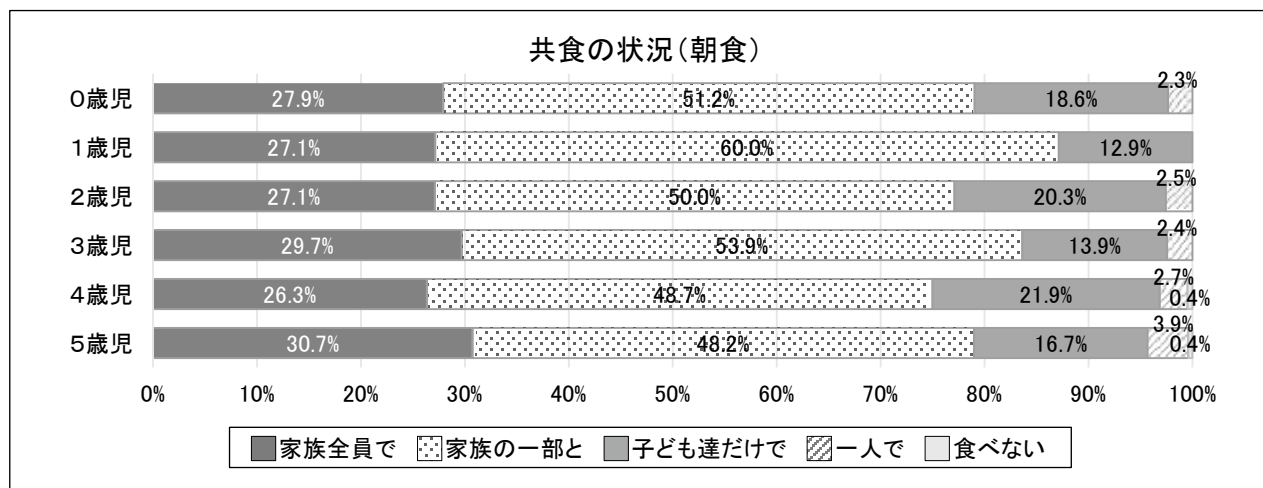
2) こども園、保育園、幼稚園、学校における食育の推進

* 第3次計画の目標値の評価（実績値は無回答を除く）

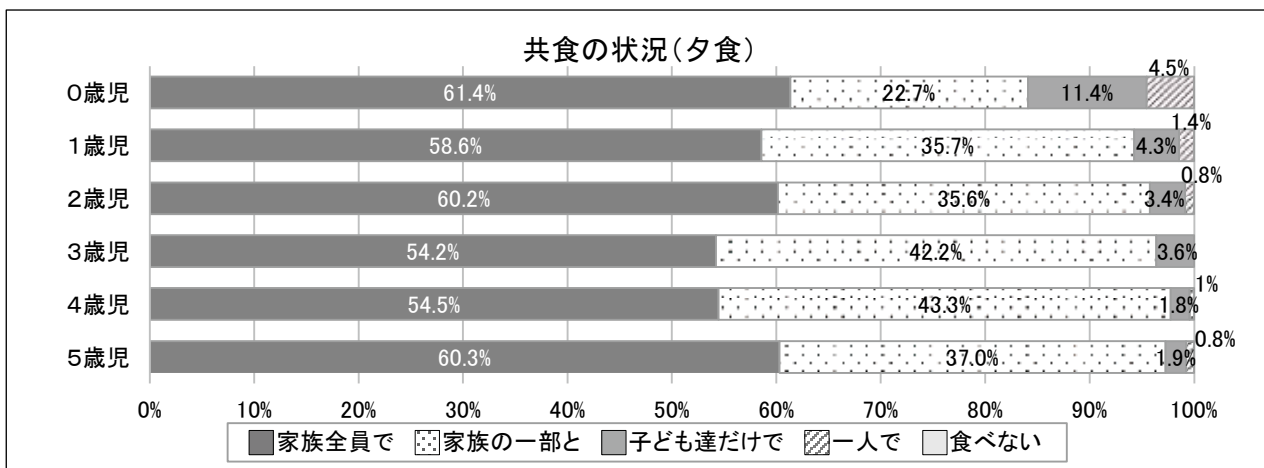
こども園・保育園

内容	現状値 (平成29年度)	目標値 (令和4年度)	実績値 (令和4年度)
丹波篠山市の特産物を見たり触れたりする機会を増やす	年2回 (平成28年度)	年3回	年3回
郷土料理、カムカム献立の回数を増やす	1~2回/年 (平成28年度)	1回/年	1回/年以上
給食の試食会を実施している園を増やす	5園 (平成28年度)	全園	0園
栄養士による給食指導の実施回数を増やす	1回/年 全園	1回/年	1回/年 全園
給食における地元野菜の使用品目を増やす	25品目 (平成28年度)	26品目	26品目以下
給食に関するアンケートの実施	1~2回/年 保護者向け	1~2回/年	1園のみ実施
調理室への当番活動の実施	毎日 2~5歳児	毎日 2~5歳児	8園中6園 実施
歯科保健教室を実施する	1回/年 全園	1回/年 全園	1回/年

全年齢で、朝食も夕食も共に家族の誰かと一緒に食べていますが、一人で食べるという子どもが少数ありました。また、今回の調査では、全年齢で朝食や夕食を食べていない子どもはいませんでした。そして、夕食を家族全員で食べる割合が、平成29年度の調査と比較すると全年齢において増加していました。これは、新型コロナウイルス感染症の影響で、家族が家にいる時間が増えたのではないかと思います。家族で楽しく食事すると会話も弾み子どもたちは食への関心を持ち、食べる意欲にもつながります。また、この年齢は基本的な食事のマナーも身につく大事な時期です。園でも特産物はもちろんのこと、いろいろな食材について話をしたり見たり、そして楽しく給食で食べながら、食事のマナーにも配慮しています。



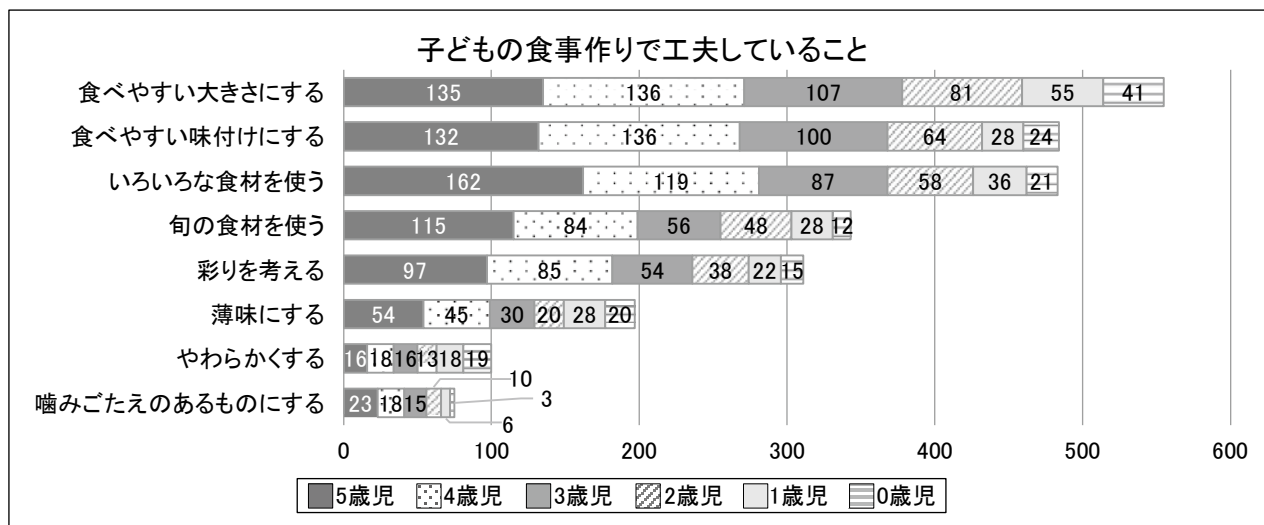
令和4年度丹波篠山市保育園こども園幼稚園食育アンケート



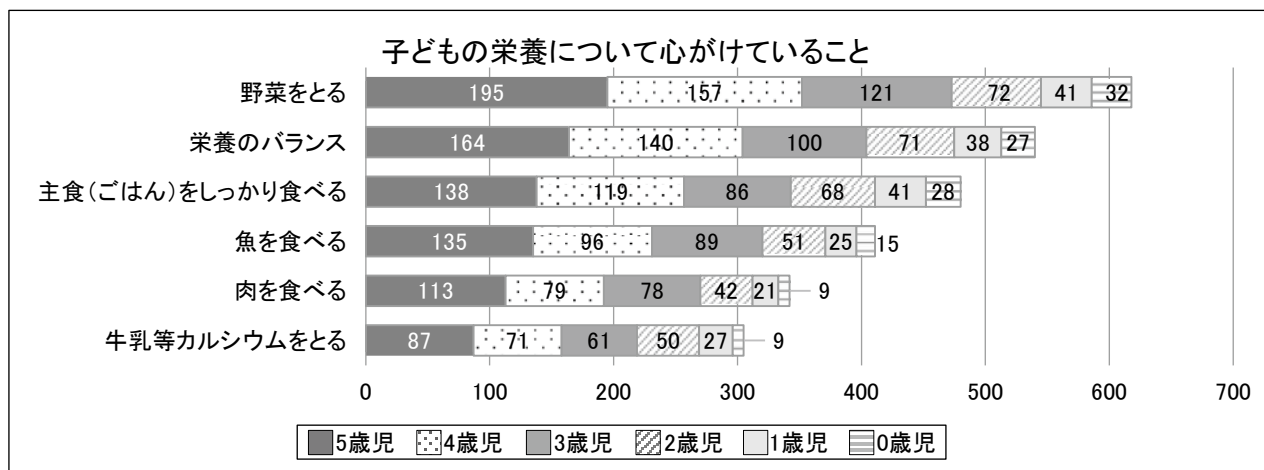
令和4年度丹波篠山市保育園こども園幼稚園食育アンケート

子どもの食事を作る時には、どの年齢も食べやすい大きさに工夫されている保護者が多く見られます。また、食べやすい味付けやいろいろな食材を使うこと、次は旬の食材を使うの順になっています。

子どもの栄養については、野菜をとる、栄養のバランスを心掛ける、主食（ごはん）をしっかり食べるが多く見られます。園でも、給食の献立表や食育だより、給食参観等を通し、今後も保護者への食育に関する情報提供を行う必要があります。



令和4年度丹波篠山市保育園こども園幼稚園食育アンケート



令和4年度丹波篠山市保育園こども園幼稚園食育アンケート

* 第3次計画の目標値の評価

こども園・幼稚園・学校・給食センター

内 容	現状値 (平成 29 年度)	目標値 (令和 4 年度)	実績値 (令和 4 年度)
丹波篠山市の特産物について 学ぶ機会を増やす	1～2回/年	1～2回/年	1～2回/年
ふるさと献立・カムカム献立の 実施回数を増やす	1～2回/月 (平成 28 年度)	1～2回/月	1～2回/月
学校給食における地元産野菜 の使用品目を増やす	26品目 (平成 28 年度)	27品目	34品目
給食センターへの見学を 実施する園・学校を増やす	幼稚園 5園 小学校 11校 その他 2件 (平成 28 年度)	増やす	幼稚園 1園
給食の試食会を実施している 園・学校を増やす	32校園中 21校園 65.6% (平成 28 年度)	全こども園 幼稚園 小中学校 特別支援学校 実施	31校園中 1校 3.2%
各校で児童・生徒の 実態アンケート調査の実施	朝食について実施 (生活習慣状況調査)	1回以上/年	1回/年 朝食の項目 (生活習慣状況調査)
食の授業を各クラスで実施	1回以上/年	1回以上/年	1回以上/年
(※) 栄養教諭、 (※) 学校栄養職員による 食指導の実施回数を増やす	幼稚園 11園 11回 小学校 10校 61回以上 中学校 2校 3回以上 特別支援学校 1校 7回以上 (平成 28 年度)	1回以上/全校	小学校 4校 13回 特別支援学校 1校 3回
歯科保健教室を実施する	全校で実施	1回/全校	1回/年 6月～10月末

3) 地域における食育の推進

* 第3次計画の目標値の評価（実績値は無回答を除く）

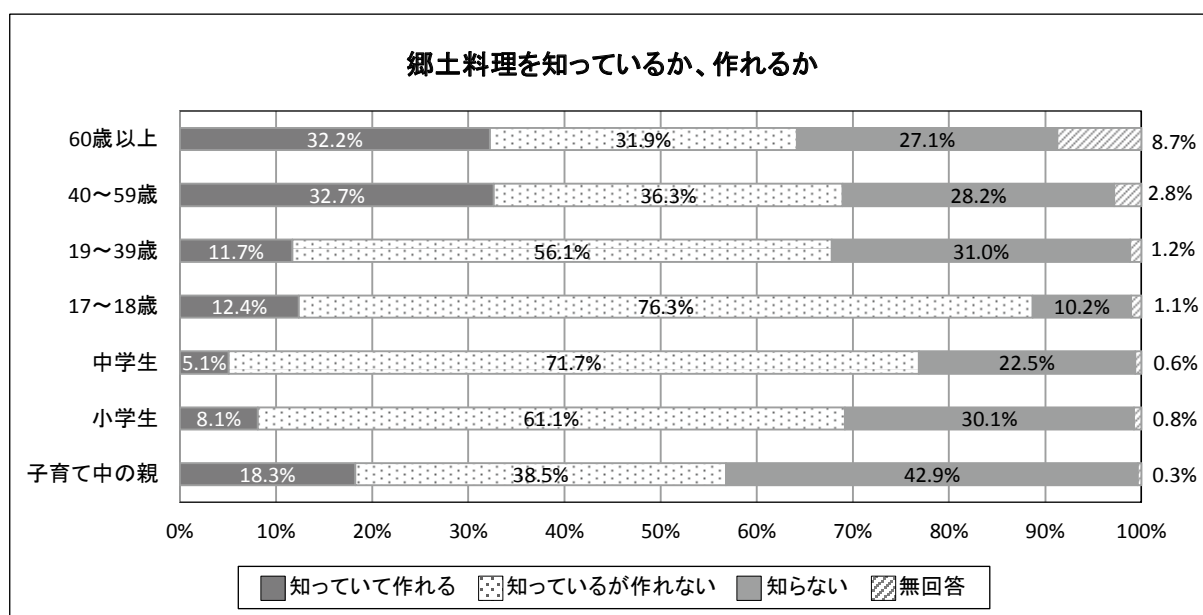
内容	現状値 (平成29年度)	目標値 (令和4年度)	実績値 (令和4年度)
郷土料理を知っている子どもの割合を増やす 【小学生】	69.2% *1	80%	69.7% *2
郷土料理を作ることが出来る人の割合を増やす 【20歳以上】	32.0% *1	40%	29.3% *2
丹波篠山でとれた農産物を意識して食べている 人の割合を増やす 【20歳以上】	52.1% *1	60%	49.1% *2
出前健康教室（栄養）の実施回数を増やす 【健康課実施分】	97回 (平成28年度)	100回	31回 (令和3年度)
出前健康教室（歯科）の実施回数を増やす 【健康課実施分】	25回 (平成28年度)	30回	22回 (令和3年度)

出典 *1 平成29年度丹波篠山市食育と健康に関するアンケート
*2 令和3年度丹波篠山市食育と健康に関するアンケート

（※）郷土料理を知っている小学生は約7割です。各小学校においては、米や黒大豆などの栽培、収穫、調理までを食育授業に取り入れてきた成果と考えられます。

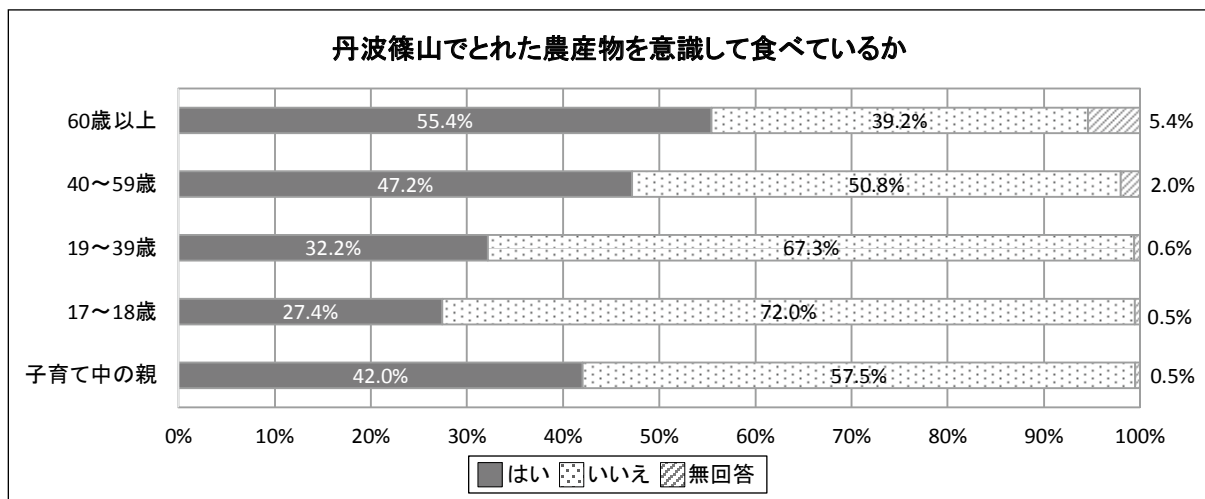
19～39歳では「知っているが作れない」と答えた人が多く、これは他市からの転入や核家族が増加し家族や近隣との触れあいが減少したのではないかと考えられます。

そのため食育の普及や実践に取り組む団体やボランティアと協働し、豊かな自然に育まれた丹波篠山の食文化を次世代へつなげ広げることが課題です。



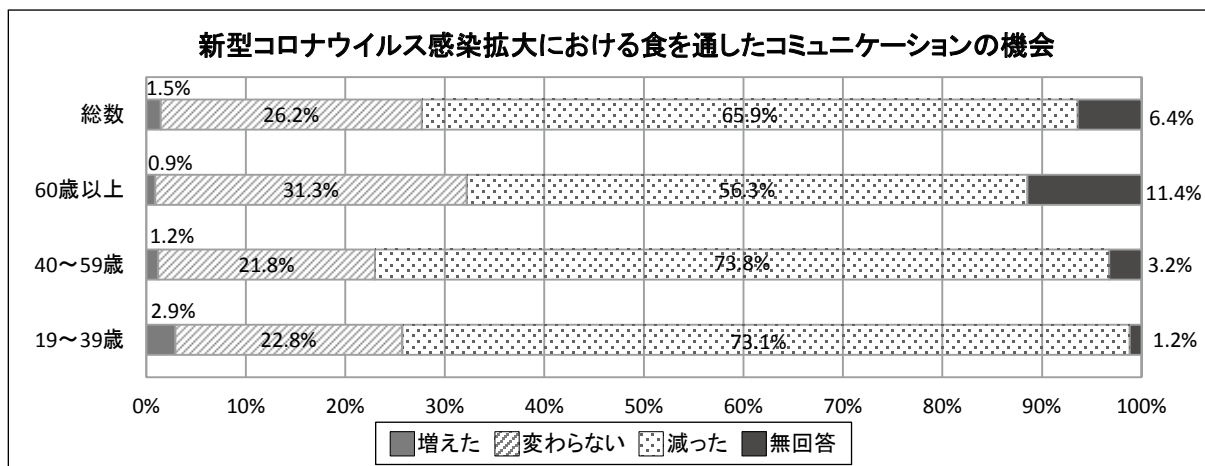
令和3年度丹波篠山市食育と健康についてのアンケート

60歳以上で意識して食べていると答えた人は55.4%です。家庭で自家野菜を作って食べている人が多いためではないかと考えられます。



令和3年度丹波篠山市食育と健康についてのアンケート

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、食を通じたコミュニケーションの機会が減少したと考えられます。短期的には地域等での共食を積極的に推進することは困難な状況ですが、新しい生活様式に対応しつつ、(※)共食できる場づくりを提供することが必要です。



令和3年度丹波篠山市食育と健康についてのアンケート

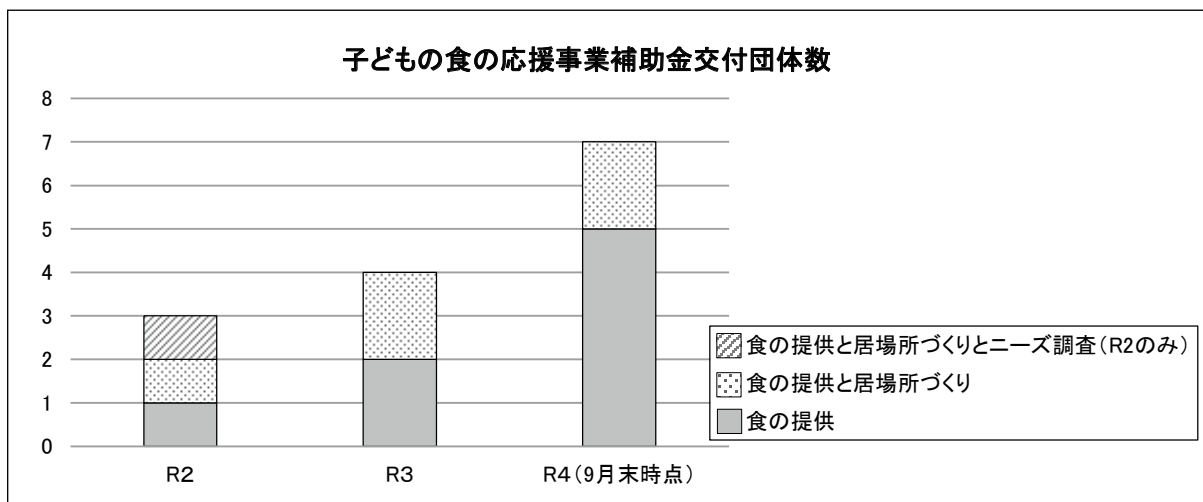
地域での食育活動の取り組みでは、さまざまな年代に対して幅広い内容の食育活動を行っています。新型コロナウイルス感染拡大により実績人数は減少していますが、今後も地域での食育活動に取り組むことが大切です。

丹波篠山市いずみ会活動実績人数

内容	H30	R1	R2	R3
親子の食育活動	293	233	95	72
男性の料理教室	52	40	—	—
高齢者の食育活動	1, 244	1, 312	285	—
食育推進事業	3, 405	2, 248	835	1, 071
地域の行事への参加	10, 402	6, 826	—	—
計	15, 396	10, 659	1, 215	1, 143

第2章 第3次計画の現状と成果と課題

市では、新型コロナウイルス感染症の影響等を受けている子育て世帯の生活を支援するために、令和2年度から子どもや保護者に食事の提供や居場所づくりを行う事業者に対し、「子どもの食の応援事業補助金」を交付しています。新型コロナウイルス感染症の収束後も、民間団体や地域と連携して子育て世帯への食支援施策に取り組む必要があります。



丹波篠山市データ（社会福祉課）

4) 丹波篠山の豊かな農産物の活用の推進

* 第3次計画の目標値の評価（実績値は無回答を除く）

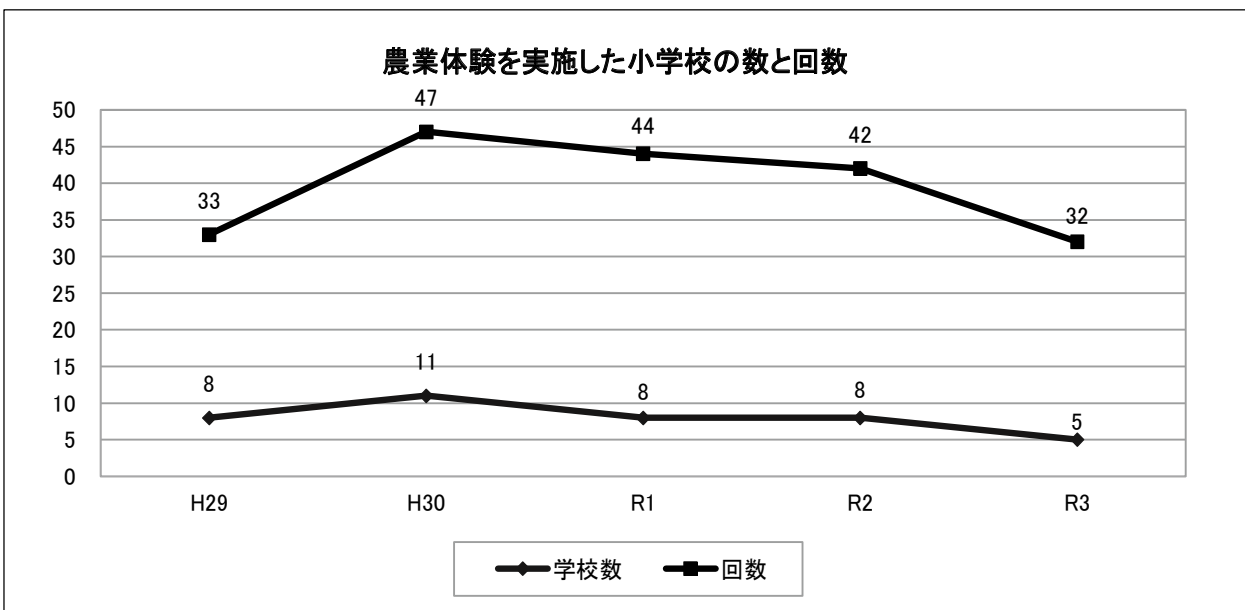
内容	現状値 (平成29年度)	目標値 (令和4年度)	実績値 (令和4年度)
農作業体験をした児童の数を増やす →児童の農作業体験実施回数 【小学生】	9小学校で 59回実施 (平成28年度 農業委員会実施分)	全小学校 で実施 (農業委員会) (学校教育課)	5小学校で32回実施 (令和3年度農業委員会実施分) 全小学校で実施 (学校教育課報告分)
若者・女性農業者や新規就農希望者 に対する研修会の開催	6部門	6部門	6部門
学校給食における地元産野菜の 使用品目を増やす（再掲）	26品目 (平成28年度)	27品目	34品目
丹波篠山の特産物を知っている 児童の割合を増やす	82.8% *1	90%	81.1% *2

出典 *1 平成28年度篠山市食育と健康に関するアンケート
*2 令和3年度丹波篠山市食育と健康に関するアンケート

農業体験を実施した小学校の数と回数（農業委員会実施分）をみると、令和3年度では5小学校で32回子ども達に食農教室を実施しています。

令和3年12月から、市内学校給食のすべてのごはんに「(※)農都のめぐみ米」を使用しています。子どもたちは栽培農家から自然環境に配慮した米づくりを学ぶことで、丹波篠山市の豊かな自然の恵みを大切にすることを育むよい機会となっています。

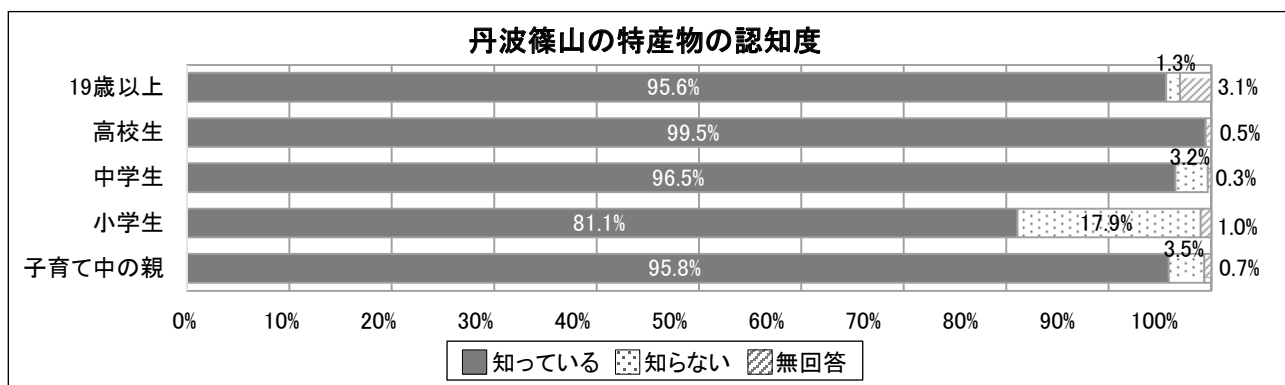
今後も学校、地域の農業者との連携をとりながら、子どもたちに農を通して食と心の健全育成活動を行います。



丹波篠山市農業委員会調べ

第2章 第3次計画の現状と成果と課題

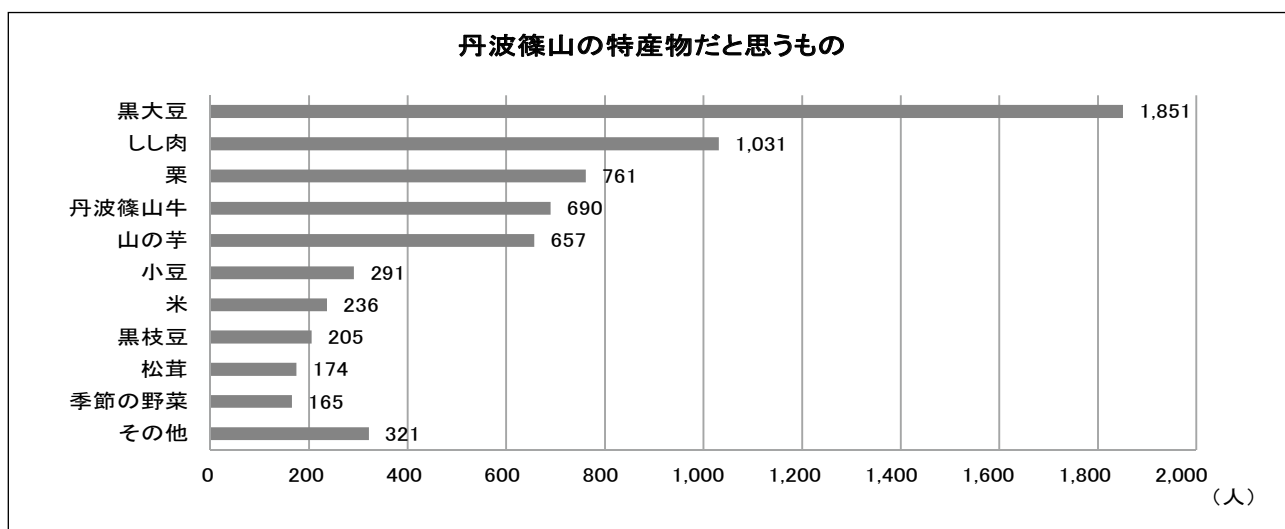
丹波篠山の特産物の認知度をみると、中学生以上では9割以上の人を知っていると答えています。



令和3年度丹波篠山市食育と健康についてのアンケート

丹波篠山の特産物だと思うものの結果では、黒大豆をあげる人が最も多く、しし肉、栗、丹波篠山牛、山の芋と続きます。

また学校給食での「ふるさと献立」や「まるごと丼」などを通じて、丹波篠山の特産物が子どもたちにとって身近なものになっています。

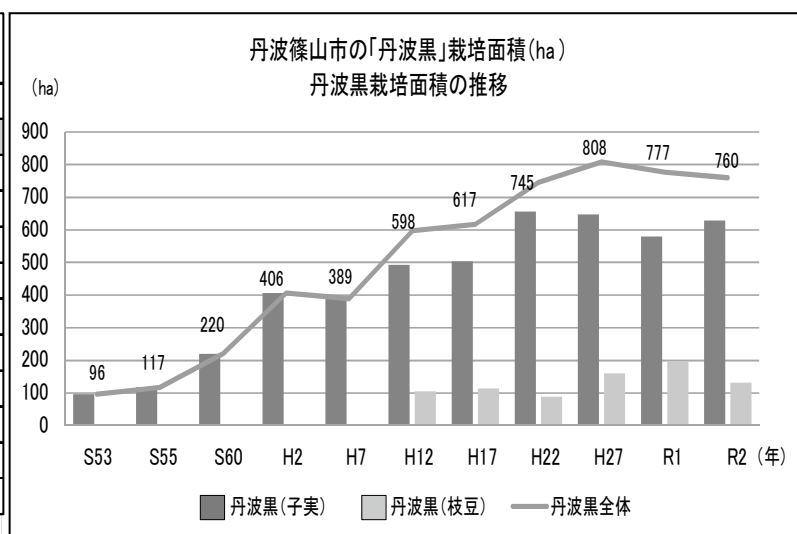


令和3年度丹波篠山市食育と健康についてのアンケート

特に、黒大豆は、丹波篠山が全国に誇る特産物です。黒大豆「丹波黒」の栽培面積を市町別に比較すると、丹波篠山市が557haと全国の約2割を占める日本一の産地となっています。

市町村	栽培面積(ha)	構成比
丹波篠山市	557	18.3%
勝央町(岡山県)	251	8.2%
津山市(岡山県)	191	6.3%
吉備中央町(岡山県)	134	4.4%
東近江市(滋賀県)	126	4.1%
多可町(兵庫県)	97	3.2%
宍粟市(兵庫県)	96	3.2%
丹波市(兵庫県)	89	2.9%
美作市(岡山県)	89	2.9%
その他	1,415	46.5%
計	3,045	100.0%

※枝豆除く。丹波篠山市データ(農都政策課)

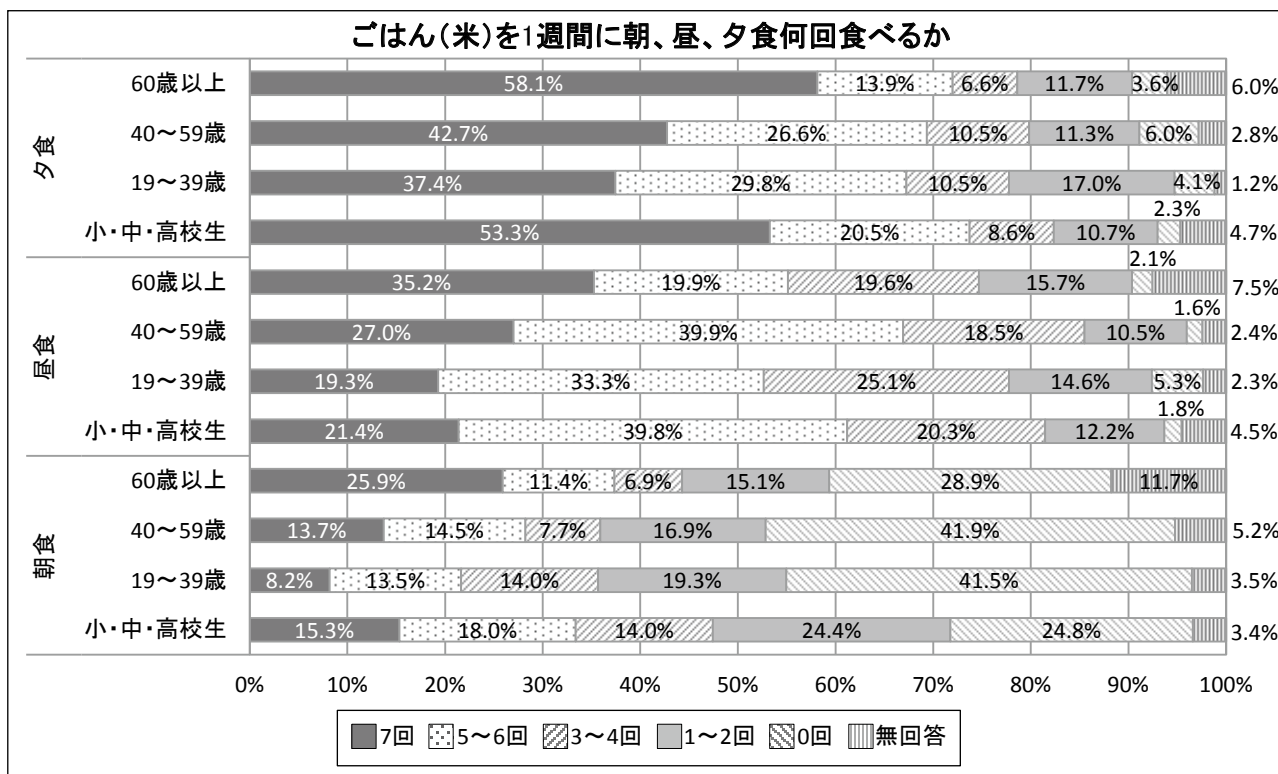


丹波篠山市データ(農都政策課)

令和3年2月には、「丹波篠山の黒大豆栽培」が、将来に受け継がれるべき重要な農業システムとして、(※)日本農業遺産に認定されました。黒大豆栽培と密接に関わって生まれた文化、(※)ランドスケープ、農業生物多様性なども評価されています。300年以上も前から引き継がれてきた栽培方法と、ともに発展してきた伝統的な食文化を改めて見直し、次代への継承に取り組むことが大切です。

令和2年4月から、原料原産地表示・栄養成分表示など、食品表示法に基づく新たな食品表示制度が始まり、市民自らが、健康や食生活を考えられるよう、栄養成分などの食品表示について理解を広げていくことも大切です。例えば、黒大豆では、動脈硬化や免疫機能に効果が期待されるアントシアニン、ポリフェノール、ビタミンE、茶では、病気の予防や健康維持に効果があるタンニン、カテキン、アスコルビン酸（ビタミンC）が含まれています。新型コロナウイルス感染症によって「食の健康」に関する意識が高まるなか、特産物が有する効能、効果などについて知識や情報の普及に努め、健康づくりや地産地消に取り組む必要があります。

令和3年7月には、市内全学校園の学校給食において、市内産の有機栽培野菜（たまねぎ、にんじん、じゃがいも、なす、青ピーマン、きゅうり）を使用した献立を初めて提供することができ、子どもや保護者に対して有機農業への理解を深める機会となりました。有機農業の産地づくり「(※)オーガニックビレッジ」の取り組みとして、学校給食への有機農産物の供給拡大を図ります。



令和3年度丹波篠山市食育と健康についてのアンケート

1週間のうち、ごはん(米)を1回も食べないと答えた人が多かったのは、朝食では40~59歳、昼食では19~39歳でした。朝食・昼食で主食にごはん(米)を食べる人の割合が減っています。一方、夕食は家族で食事をする機会が多いと考えられ、毎日ごはん(米)を食べる人はどの年代でも多くなっています。

主食に米を食べることは、(※)日本型食生活の実践、生活習慣病予防の観点からも有効であり、市民の米に対する関心が高まるよう、今後も主食として米の活用を工夫する食育活動を進めます。

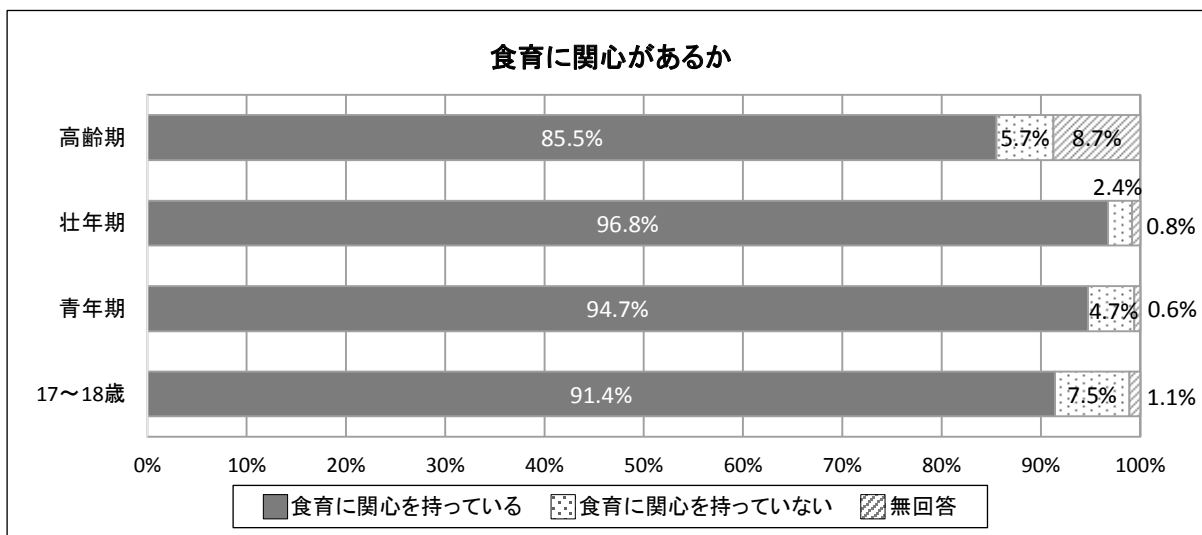
5) 食育を進めるための環境づくりの推進

* 第3次計画の目標値の評価（実績値は無回答を除く）

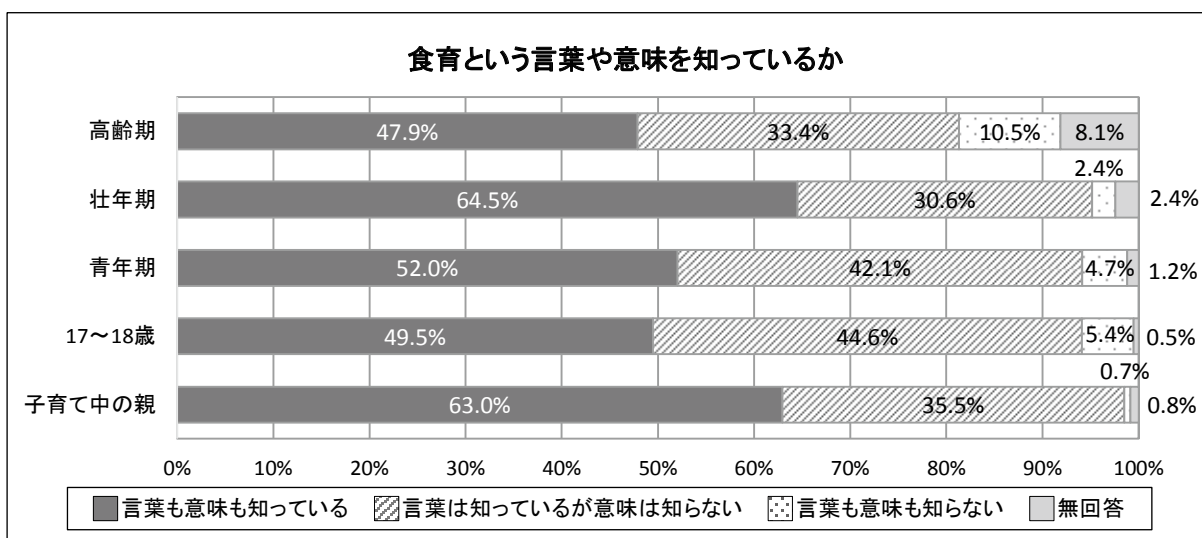
内容	現状値 (平成 29 年度)	目標値 (令和 4 年度)	実績値 (令和 4 年度)
食育に関心を持っている人の割合を増やす 【20 歳以上】	59.9% *1	70%	95.5% *3
食育を実践している人を増やす 【20 歳以上】	47.4% *2	80%	72.3% *3

出典 *1 平成 29 年度篠山市食育と健康に関するアンケート *2 県民意識調査
*3 令和 3 年度丹波篠山市食育と健康に関するアンケート

食育に関心を持っている人の割合は、どの年代においても高くなっています。また「食育という言葉を知っている」と答えた人は 8 割を超えています。しかし、その中でも「言葉は知っているが意味は知らない」と答えた人は 3~4 割です。食育という言葉だけでなく、市民一人ひとりが日々の生活の中で食育の意味について考え、実践していく環境づくりを進めていくことが大切です。



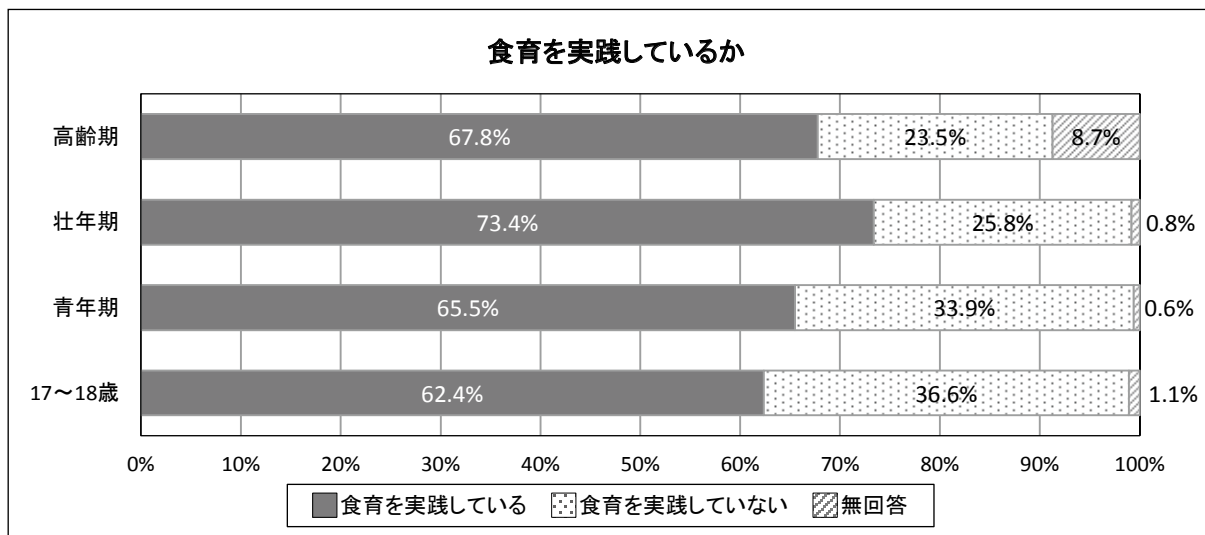
令和 3 年度丹波篠山市食育と健康についてのアンケート



令和 3 年度丹波篠山市食育と健康についてのアンケート

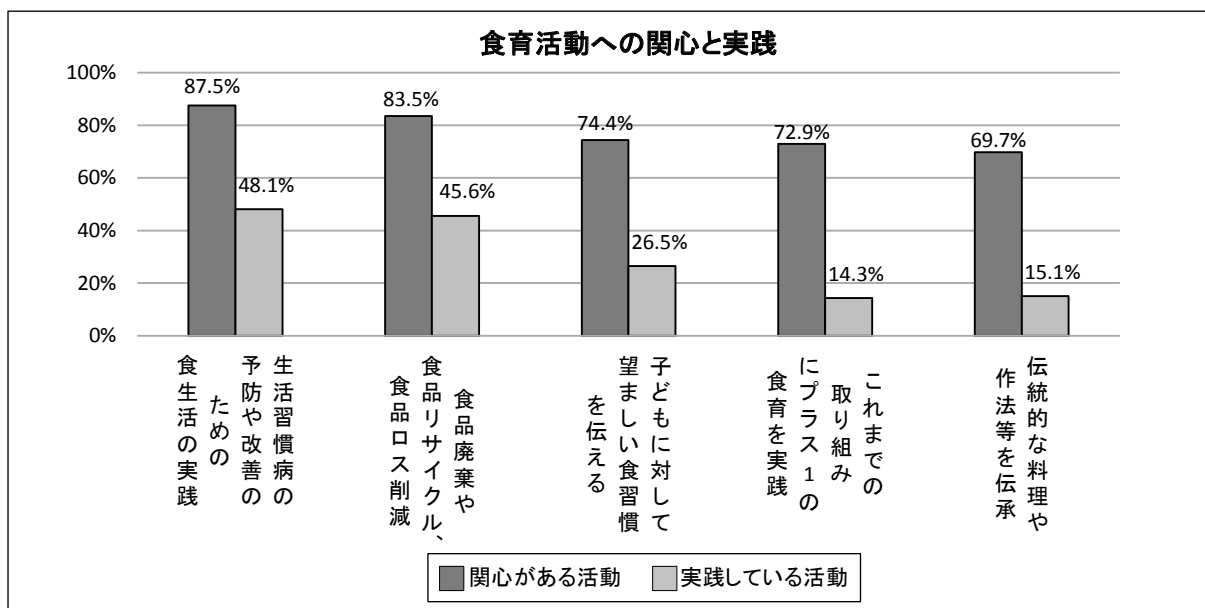
第2章 第3次計画の現状と成果と課題

食育を実践している人の割合は6割を超えています。平成29年度の実績値よりも高く、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、おうち時間が増え、家庭での食事や食育に関する情報にふれる機会が増加したことが背景にあると考えられます。情報発信として(※)丹波篠山市いずみ会、中央公民館、給食センターが作成したレシピ集やレシピ本を活用してきました。さらに生活の中に食育の実践を定着させるための手段の一つとして、(※)ICTを活用した情報発信を行うことも課題です。また、食育を実践している人を地域のリーダーとして市内に広く発信できる機会を設ける必要があります。



令和3年度丹波篠山市食育と健康についてのアンケート

関心がある食育活動は、生活習慣病予防や改善等の健康づくり、(※)食品ロス削減、望ましい食習慣を伝える、プラス1の食育実践、伝統的な料理や作法の伝承の順となっており、実践している活動においても同じような傾向にあります。今後は食育活動をしている様々な団体との連携をさらに強化し、食育活動を活性化していくことが大切です。



令和3年度丹波篠山市食育と健康についてのアンケート

